

今週のコメント

- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は1.54で、過去5年平均値(0.86)を上回る状態が続いています。
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が3例あり、本年の累積報告数は17例となっています。3例は、すべてO157VT1VT2です。
- ・ 麻しんの報告が9例あり、本年の累積報告数は33例となっています。

今週のトピックス:<手足口病>

- ・ 定点当たり報告数は1.41で、過去5年平均値(0.43)を上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 2例(喀痰塗抹陽性 なし,無症状病原体保有者 なし)
【1月以降の累積報告数 159例(喀痰塗抹陽性 51例,無症状病原体保有者 13例)】
- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症(O157 VT1VT2) 3例 【1月以降の累積報告数 17例】
- ・ 五類:麻しん 9例 【1月以降の累積報告数 33例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68,小児科定点41,眼科定点10,基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.03	2
小児科 (降順5位まで)	感染性胃腸炎	5.37	220
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.54	63
	手足口病	1.41	58
	水痘	1.32	54
	突発性発しん	0.49	20
眼科	流行性角結膜炎	0.10	1

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
アデノウイルス40/41型(2)	感染性胃腸炎(第20週)	FC
	感染性胃腸炎(第20週)	FC

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<手足口病>

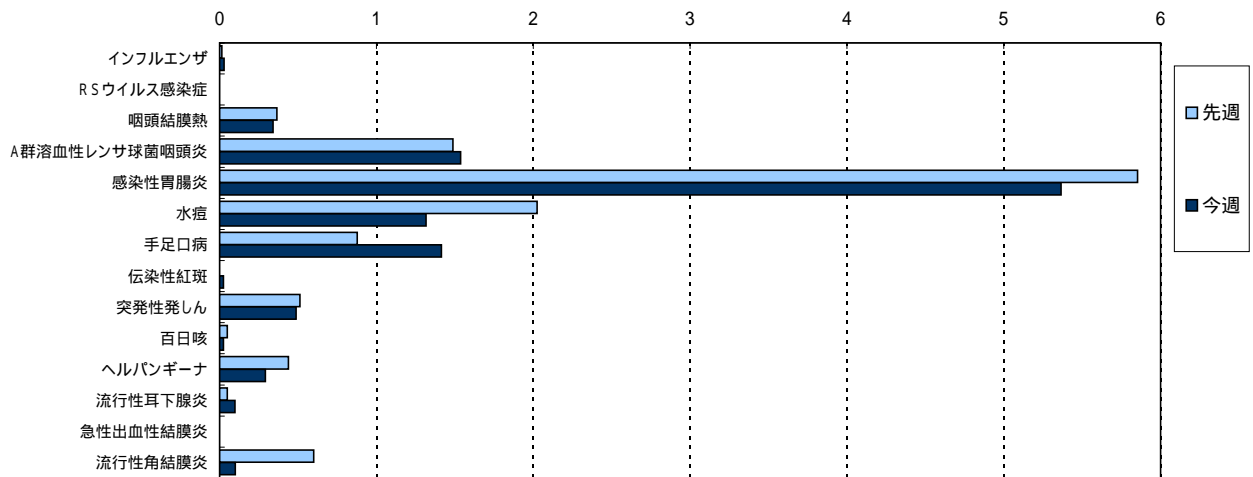
(注)京都市のデータは、平成20年6月16日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

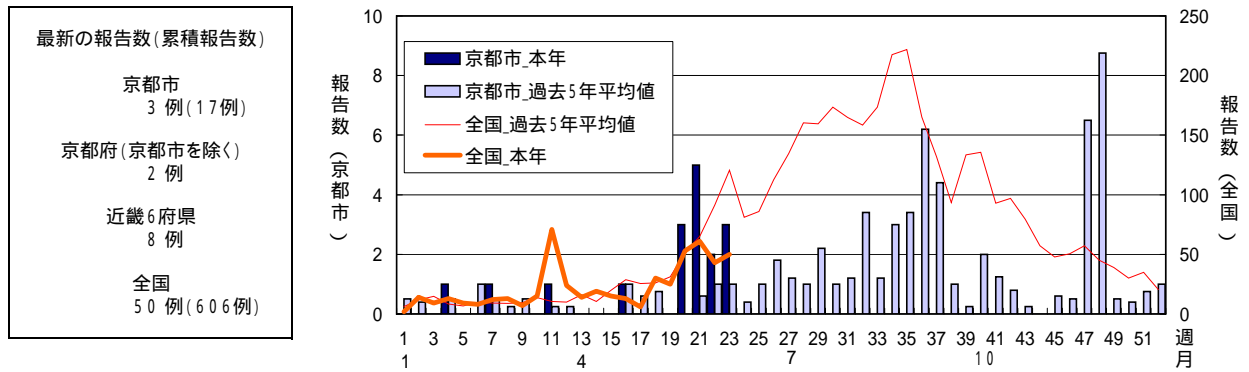
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

発生状況の概況グラフ

1 今週(第23週)と先週(第22週)の定点当たり報告数の比較

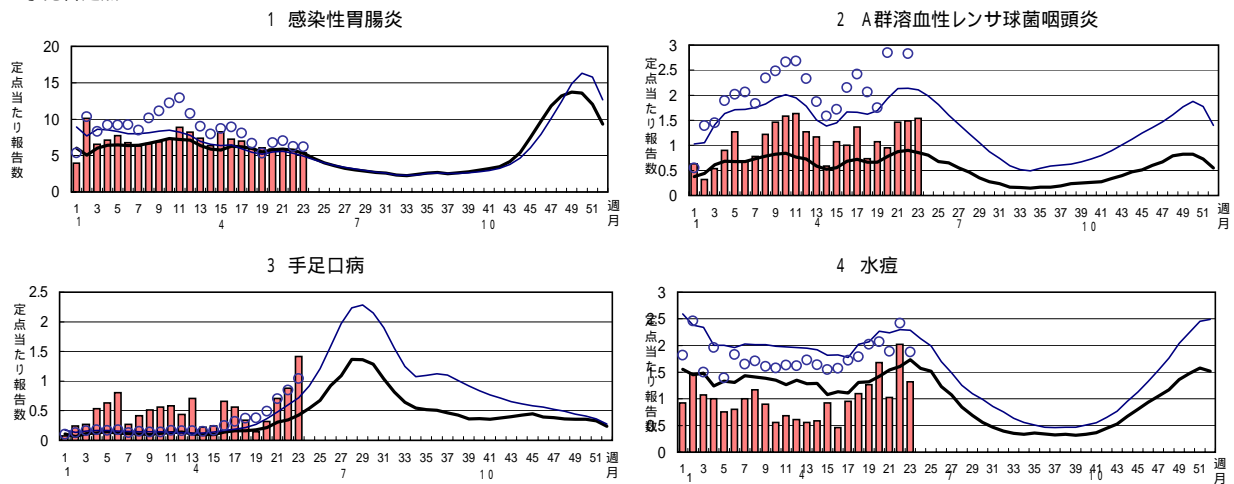


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

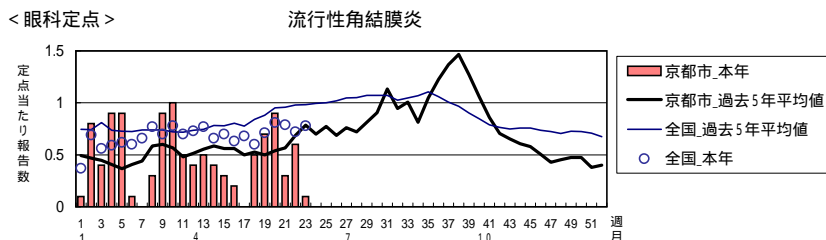


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



今週(第23週)のトピックス: <手足口病>

手足口病の第23週の定点当たり報告数は1.41で、本年で最も多く、過去5年平均値を上回る状況が続いています。

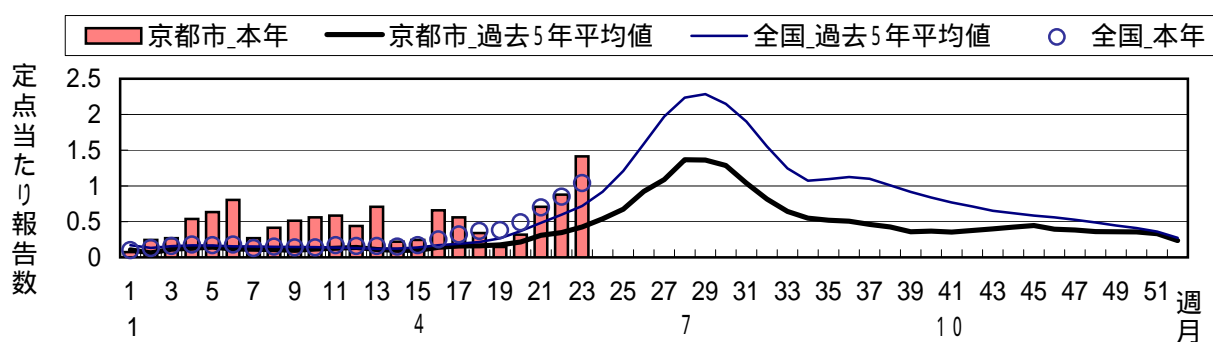
手足口病は、季節性が明確で、6～9月ごろに報告数が増加します。

コクサッキーA群10型、16型、エンテロウイルス71型などが病因となりますが、本年については6月16日現在、国立感染症研究所感染症情報センターの病原微生物検出情報によると、手足口病由来ウイルスとして、コクサッキーA群16型が、多く検出されています。(http://idsc.nih.go.jp/iasr/prompt/s2graph-kj.html)

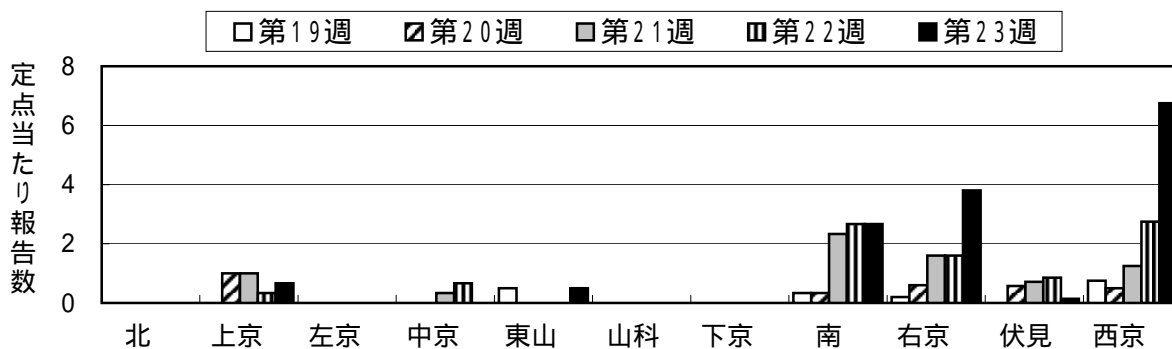
本市における最近5週の行政区別定点当たり報告数の推移では、西京、右京、南からの報告が多く、北、左京、山科、下京の4区からは報告がありません。

最近5週の年齢別報告数では、特に5歳以下の年齢層の報告が多くなっています。

定点当たり報告数の推移(平成20年第1週～第17週)



最近5週の行政区別定点当たり報告数の推移(第19週～第23週)



最近5週の年齢別報告数の推移(第19週～第23週)

